

梅雨空とミンミン蝉

7月31日の朝、駅に向かう途上で、ミンミン蝉が鳴いていた。なぜか、重苦しく鳴いているように聞こえた。空は、梅雨空で、雨がポツリポツリと落ちていたせいだろうか。でも、おかしい。

蝉は、雨が降っていると鳴かないはず。その理由は、「メスが飛んでこないから」、「気温が下がるから」だと言われている。蝉は、太陽が出ている下で、うるさい程に鳴くものだ。最も、都会では街灯のもとで夜でも鳴いていることもあるが……。

なぜ、雨でも鳴いているのか。平年と異なり、太陽が出てなくとも、やむにやまれず鳴かないと次代につないでいけないのだろうと思う。

蝉も命を懸けているようだ。

東京の梅雨明けは平年では、7月21日前後となっている。今年は、8月にずれ込んだ。1951年からの気象庁の統計では、8月に入ったのが、69回中4回だけしかない。平年とは異なっている。

梅雨が明けると、あちこちで、花火大会が威勢よく開かれるが、今年は、みな中止のようだ。これも平年とは違う。

梅雨明けが遅れているように、今年は、平年と異なり、新型コロナの感染拡大、豪雨災害、オリンピック中止など、異常な年となっている。

いつもと違う今年の「風景」

以下、平年と違うことを考えてみた。

集中豪雨災害は、今までになかったのが最近、起こるようになった。今年も、九州や山形で川が氾濫し、被害が拡大した。何度か溪流釣りに行っている、山形県の1200年の歴史ある肘折温泉は、真ん中を流れる最上川支流の銅山川の護岸が崩れ、無残な姿になっていた。温泉施設も影響を受けていた。残念である。

大量の雨が一気に降るので、防ぎようがないが、国の河川対策などは、後回しになっていると思う。がけ地や川のそばには住まない、農地は作らないほうが良いが、狭い国土の日本ではそうはいかない。地球的規模で災害をもたらしている気候変動が豪雨災害のもとなので、温暖化対策を本気でしなければ、防げないだろう。

新型コロナの感染拡大が、全国で日増しに急激に増えている。東京都では、感染者数が、ついに400人を超え、梅雨明けの1日の感染者は472人となり最多記録を更新した。500人超えはすぐだ。身近に迫っているような気がして不安だ。夏には、自然に収まるのではないかとされたがとんでもない。インフルエンザと違い、感染が拡大しているのだ。

今、検査数を爆発的に増やし、陽性者を隔離し、感染拡大を防ぐことが必要と、医師会や野党などは訴える。今、対策しないと、「感染拡大は止まらず、火だるまになって増えていく。コロナに夏休みはない」と強く言う。



緊急事態宣言を出した時以上に感染が拡大しているにも関わらず、国は動こうとしない。東京都も、酒類提供飲食店やカラオケ店の時短営業要請や「個人で気を付けて、対策を取っている店には行ってもよい」と言うだけだ。店側が対策を取っていても、感染者が店に行けば、感染は広がるはず。店側も行くほうも PCR 検査で陰性なら、安心して何時までも過ごせるのではないか。感染者を確認することが何よりも対策の優先順位で、感染拡大を止めるものではないか。対策が的を射ていない点について、命を軽視していて、異常と言わざるを得ない。

タコつぼから出てきて国会を開け

国会を開いて、対応を早急に協議すべきだ。安倍首相は自らに関わる事案で追及されるから開かないと決めているようだが、一国の首相ともあろう者が、逃げている場合ではない。

ミンミン蝉が「ミン♪ミン♪ ミーン♪ミン♪ミン♪」と鳴いているのは、「早くまともな対策をしろ！」と言っているような気がしている。

そんな中で、感染防止でマスク着用が日常的になった。もはや、マスクをつけない人を見かけるのが難しい。新型コロナのワクチンなど治療薬ができない限り、マスク生活は続く。マスクは、身に着ける服と同じようになったようだ。これも、平年と違うものだ。

もう一つ気になっていることがある。7月30日、午前緊急地震速報が、勢いよく流れた。東京に近い震源地ということで、首都直下型地震がきたかと身構えた。でも、来なかった。この速報で、電車が止まり、1時間も車内に閉じ込められた客がいた。

結果は、誤報であったが、関東でも地震が多発していて、大きな地震が来るのは近いような気がする。今年が異常な年だから、今年かもしれない。あくまでもそんな気がするだけだが。

(千代田区労協議長 小林秀治)

*千代田区労協通信バックナンバー／http://www.chyda-kr.org/kuroukyou_news2020.htm

※皆さんからの投稿、感想・ご意見などお待ちしております。